

月歩学歩

“月日を歩き、学んで歩く” 明德の「今」を伝える月刊誌「げっぼがっぼ」

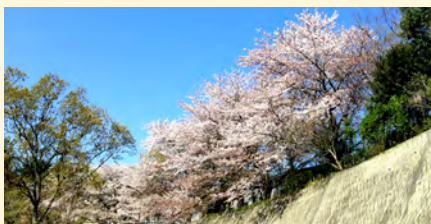
新年度 新発進、新発信

明德の新年度が新発進した4月です。入学式では、新入生一人ひとりが、明德で達成したい「決意」を表明しましたが、この「月歩学歩」も、明德の学生たちの生き生きとした「今」を伝えるべく、親しみやすく読みやすい冊子を目指すという決意を胸に、新発信として新発進です。

読者の皆さまと共にこの「月歩学歩」を創っていきたいと考えていますので、本誌に対するご意見を心よりお待ちしております。



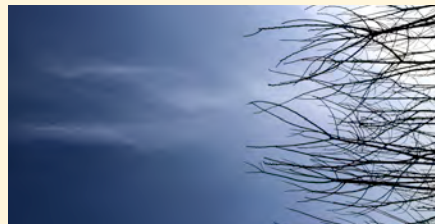
特集 第45回入学式 (P.2-8)



1年生の4月 (P.9-11)

明德を知る・お互いを知る

- ・オリエンテーションをふりかえって～1年生に向けて～



2年生の4月 (P.12-13)

自分で選ぶ授業の始まり

- ・2年生になって
- ・新入生歓迎会

新連載

教員からの

おすすめ (P.14)

「絵本の世界へようこそ!」

!hot news! 今月の

明德速報 (P.15)

!次号からの新連載

予告! (P.15)



特集 第45回入学式



▲初々しい新入生の姿 ▼新入生を迎える新2年生の姿



4月3日、満開の桜と式場内外を彩るパンジーと共に、明德は45回生となる新入生を迎えました。そして学内に足を踏み入れる新入生を、新2年生たちがさまざまな形で迎えました。

式前、緊張の面もちで座っている新入生に対し、まずは森誉太さんと鈴木利美さんが司会を兼ねて穏やかな歓迎の挨拶です。続いて、安西優奈さんと生貝友香里さん、西澤円花さんと山崎友希英さんの連弾によるピアノ演奏が行われ、会場は温かな雰囲気になりました。さらに、内川歩美さんの伴奏に合わせた山口勝菜子さんの指揮と、後ろに立つ2年生の頼もしい歌声の後押しにより、新入生は初めて明德の校歌を歌いました。式後には、井上和幸さんと中志瑠奈さんのユーモア溢れる司会、岩澤涼子さん・松本旺那さん・渡辺奈菜美さんの細やかな心配りあるサポートにより、新入生たちは壇上で、この2年間で達成したい「決意」を各自発表しました。

明德では、このように一人ひとりが自分の考えを発表する機会を大切にしています。新入生は、早くも明德の学生らしく、一人ひとりしっかり顔を上げて堂々と発表していました。また、2年生たちによって進められたこの式前後の内容も、明德らしさを表していました。

次ページからは、このような明德らしさ溢れる式での「学長式辞」、「理事長挨拶」、2年生代表からの「歓迎のことば」、そして新入生代表による「新入生のことば」をご紹介します。



平成26年度 千葉明德短期大学入学式

ピアノ演奏

1. 「となりのトトロ」 安西優奈 生貝友香里
2. 「ディズニー・メドレー」 西澤円花 山崎友希英

式次第

1. 開式の辞
2. 学長式辞 学長 籠 光夫
3. 理事長挨拶 理事長 福中 儀明
4. 来賓紹介
5. 歓迎のことば 鈴木 伶奈
6. 新入生のことば 林 彩葉
7. 校歌斉唱 ピアノ 内川 歩美
8. 閉式の辞



学長式辞

えびらみつお
籠光夫

新入生の皆さん！ 入学おめでとうございます。

あいにくの雨の天気となりましたが、学園のみごとな桜が満開で、皆さんを祝福してくれています。保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。2年間のご支援賜りますようお願い申し上げます。

さて、新入生の皆さんは様々な思いを抱き、いくつかの目標を持ち、本日を迎えたことと思います。

小さなときから幼稚園の先生になりたいと思っていた人も、社会人で入学した人も、四大を終えた人も...中には成り行きで、本意ではないが入学してしまったという人も...いるかもしれない...。このようにさまざまな人たちが混在していることがとっても大切なことだと、私は思っています。皆さんの一人残らず保育者を目指している人たちだけの方が、教員としては取り組み易いのは当然ですが、これもまた不自然なことと思っています。

なぜかと申し上げるならば、いま私たちの生きているこの日本の社会は実に不透明で、誰もが先行きに不安を感じている現実があります。

保育の世界でも制度が大きく変わろうとしています。どこの園長、理事長さんたちも大変迷っている。今のままでいいのか、“認定こども園”に移行するのか...また“認定こども園”に既に移行してしまった園では、幼稚園と保育園で、保育を担った人たちであるのに、保育に対する考え方が全く異なる職員（保育者）同士が、どのように保育をしてもらうのか悩み、迷っている状況です。

社会が大きく変化する時、又、制度が大きく変革する時、誰もが不安になることは当然なことです。

皆さんもこれまで学校の教育課程、教科と教科書に、担当の教師がいて、評価されてきました。そこでは教師が決定権を持っていたと思います。ここ明德短大でも教育課程に基づく教科編成がなされ、卒業と資格取得のために守ってもらうルールがあります。

しかしもう一方で、私たちは“保育創造”という学科の理念を持っています。保育創造の理念として“子ども一人一人の存在そのものが創造的である”と考えています。少しわかり易く表現すると、人間は生まれて、自分で立ち上がるまでに約1年という時間が必要です。そして、立ち上がるその一瞬は、一生に一度の出来事です。その一瞬は誰もが誇らしく、とても嬉しそうな笑顔をします。この一瞬は感動的であり、保育者は両親の代わりにこの一瞬に立ち会うという荣誉ある仕事です。

それまでも、お母さんのお腹の中で過ごし育った時間、生まれてからお乳を飲んで、オシメを替えてもらい、ハイハイしながら何でも口の中に入れる...人間が育つにはそんな長い時間が必要です。その一つ一つが創造的な時間を創っていると思います。保育者はその時々の時間を子どもと共に、どのように豊かに過ごすのかどうか...時間の観念や一つ一つの物事に対する姿勢を創造できるのかどうか問われます。

新入生の皆さんは、今日から私たちと保育を学ぶ学生になりました。保育を学ぶ一人の学生として、その存在そのものが創造的であって欲しいと願うのです。それには、中学・高校の時の教育課程の中で教師から評価されることから開放されることが必要です。開放される一つの方法に、子どもたちとの出会い、そこでの関わりの中で、“何を感じる”か“何を考える”か学生一人一人が感じる事、考えることが“ちがう”こと！！この“ちがい”を得意げに語り合うことです。語り合う楽しさを共有し合う...いくら語り合っても一つの答えになることは決してないことを楽しむ！！先生たちとこの話を聞いてみよう...いや付属幼稚園の先生と語ってみたい...土気保育園の先生たちにも...更にもう一度、子どもたちと遊んでみたいと本八幡駅保育園を訪ねてみる...こうした繰り返しができる明德の教育実践に取り組んで、学生として心から開放される体験をして欲しいのです。

このように、この明德に集い、保育を学ぶ仲間たちと感じたこと、考えたことを語り合い、自ら気づき、学び合う時、教師も学生も現場の先生たちも対等な関係の中で、“子ども”について語り合う。こうした開放された関係の中で過ごす時、子ども一人一人が、学生一人一人が、その存在そのものが創造的であり、学び合う明德の教育実践も創造的でありたいと願っているのです。

保育創造の理念に基づく教育実践で学び合う時、“学校、教師、評価される”という大きな枠組みが崩れ、何を大切にするのか、自らの考え方、評価の観点が変わります。そして、新しい世界・未来の社会を創造する学びと育ちを創ることにつながっていくものであると信じています。今日から私たちと共に楽しい学びを創ることを期待します。これで、学長の祝辞とします。

理事長祝辞

ふくなかよしあき
福中 儀明



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。またご家族の皆様方、おめでとうございます。本学は1970年に創立されました。皆さんは第45回の入学生になります。新しい出発という、このよき日、まず最初に本校の名前「明德」の由来について説明させていただきます。

今から約2000年昔に書かれた中国の古典「大学」の中に「明德」という言葉が出てきます。「大学」といっても高校に続く大学のことではありません。「小学」に対する「大学」の意味です。「小学」といっても小学校のことではなく、「小さな学問」いわゆる、よみ・かき・そろばん、といった個人が生きていくために必要な身の回りの基礎的な学問——これが小学です。

一方、大学は小学よりもっとレベルの高い大きな学問——自分が生きるためではなく、世のため、人のためになる学問を意味します。「大学」を究めるためにはどうしたらよいのか？この本の中には次のように書いてあります。——「大学の道は明德を明らかにするにあり」

「明德」とは人が天から得たすぐれた能力、人間として生まれながらに持っている人間性であり、明德を明らかにする、とはそれを輝かせる、ということです。

さらに続く一節には、「明德を明らかにせんと欲する者は先ずその知を致す」とあります。明德を明らかにするためには、まず知恵と知識を身につけ知性を究める。そうすれば善悪の判断ができるようになり、心が正しく豊かになる——ということです。

本学は小さな組織ですが中身は豊富に詰まっています。同じキャンパス内には附属幼稚園があり、こども臨床研究所があります。学校附属としては千葉県内最初の駅型保育園である明德本八幡駅保育園があり、さらに二番目の駅型保育園である明德浜野駅保育園もあります。姉妹法人である社会福祉法人千葉明德会の明德土気保育園もあります。また昨年度は、千葉明德会の二番目の保育園として習志野市内に明德そでの保育園も開園しました。

ですから皆さんは今日から本学の学生になっただけではありません。入学と同時に幼稚園や保育園の研修スタッフになったと考えていただいたほうがよいでしょう。明德の総合保育創造組織の一員に加わったのです。

皆さんのこれからの学びと活躍に期待し、理事長よりの祝辞と致します。

歓迎のことば

すずき れな
鈴木 伶奈



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんはどのような気持ちでこの日を迎えられましたか。大学という新しく始まる生活に、期待や不安を抱えていることと思います。一年前の私も同じ気持ちでした。

4月から始まった月1回の幼稚園実習で、私は「平等」と「満足」という壁にぶつかりました。それまでの私は、子どもたちとかかわる時に、みんな同じ時間、同じ機会、同じ接し方をしなければならないと思っていました。「前回の実習ではこの子とかかわったから、今日は他の子とかかわってみよう」などと考えていました。しかし、それは「私」の考えであって、子どもたちの気持ちはどうなのだろうと疑問を持ち始めました。10分遊んだら満足する子、「抱っこして」と言ってきても10秒抱っこすれば満足する子、または一日中べったりしてそれでも満足できない子など、子どもたちによって満足の仕方はさまざまなのに、同じようにかかわるのは少し違うのではないかと思いました。一人ひとり私たちに求めているものは違い、その必要性も変わってきます。私は、時間や機会にとらわれてしまいましたが、そうではなく、子どもたち一人ひとりが保育者や私たち実習生とかかわる事によって、どれだけ満足できるか、心の不安を取り除けるのかが大切なのではないかと思いました。

私は、平等という「量」について視点を置いていましたが、授業の中でみんなと話し合いをしていくうちに、必要性などの「質」も関係してくるのではないかという話が出てきました。量と質のバランスがとれることによって、その子がどれだけ満足するかにも繋がっていきます。その子が必要としている時に、私たちがどれだけ考え、かかわる事が出来るのかが大切だと思います。また、抱っこしてほしいという言葉、気持ちの裏にはどのような背景が秘められているのでしょうか。もしかすると、家庭で十分に甘えられていない、甘えられない事情がある、または抱っこしてほしいのではなく何か違う事に対してのサインかもしれません。このような事を考えていくことが、保育者としての役割なのではないかと思います。平等と満足については、これからも課題として考えていきたいと思っています。

次に保育実習では、「保育観」について考えました。実習では、子どもたちと楽しく歌を歌ったり、踊ったり、制作活動をしたりと、楽しいと思える事ばかりでした。しかし、あるクラスに入った時に、子どもたちは保育者の話に耳を傾けず、おしゃべりをしたり、言い争いからけんかに発展してしまったりしていました。私はその様子を見て、子どもたちがかわいそうで仕方がなくなりました。同時に、なぜ保育者はこのような保育をするのだろうと疑問を持ちました。このような場面を観て、保育とは何だろうか、私だったらどのような保育をしたいのかと、だんだん気持ちが揺らいできました。保育者の意図や気持ちを理解できないことに苦しみ、沢山悩みました。保育では、実習での学びや日常生活の仕方、またはその人の育ち、

環境なども大きく影響してきます。人それぞれ価値観は違い、保育の世界でいう保育観も同じことだと思います。

(中略)

それから私は、友だちと一緒に「冒険パーク」というサークルを作りました。きっかけはある授業のグループで行ったプレーパークのボランティアでした。そこで子どもたちとかかわってみて、実習とは違う子どもの姿を発見したり、お母さんの子育てについての生の声を聞いたりして、もっと人とかかわりたい、自分たちも企画してみたいと思うようになりました。夏は公園で手作りのウォータースライダーを作り、スイカ割りをし、秋は小学校に呼び掛けて運動会を開き、冬は学生と子どもがペアになって「逃走中」をしました。反省点や失敗もありますが、保育にも生かすことができると思いますし、今年度も沢山企画して、子どもたちと楽しみたいと思っています。みなさんも興味がありましたら、ぜひ一緒に活動しましょう。

明德は、「体験から学ぶ」といったように、実際に体験し人とかかわることで、机上では学ぶことができない事が沢山学べるころだと思います。新入生のみなさんにも充実した学生生活を送って欲しいと願い、私の一年間の学びを挨拶とさせていただきます。学生生活や実習について聞きたい事があれば、ぜひ私たち2年生や先生方に聞いて下さい。一緒に考えたり、悩んだりと力になってくれるはずです。これから共に学び、素敵な学生生活を一緒に送っていきましょう。

「歓迎のことば」に寄せて

石井 章仁

鈴木さんは、心身共に芯を持ち、得たことを必ず次に生かそうとする姿勢が印象的な学生でした。プレーパークの活動に積極的に参画したり、富士山に登ったりもしました。レポートの振り返りをして、そこで出た話題が翌月のレポートに反映されていることも多くありました。部分実習の際にも、事前に模擬の練習をしましたが、同じような制作を行う学生の良い所を取り、バージョンアップしていく様子がみられました。他のメンバーからは、いつも「とてもよく考えている」と評されていましたが、本人は自分にも足りないところがあり、常にアドバイスや意見を求めているようでもありました。3月の実習後の振り返りで、はじめて彼女の苦悩する姿を見ました。「楽しかった実習が残り2日間で苦しくなった」と言って皆の前で涙を流したのです。私は、彼女の垣間見せた本音や苦悩を好意的に捉え、1年生に向けたメッセージの中であえてここに触れることで、ステップアップして欲しいと思いました。今回、彼女が揺らいだ経験は、きっと保育現場に行ってから感じることでしょう。それにどう気持ちを向けるか、そしてどう行動を起こすかを今回考えられたことは、彼女の今後生きてくることだと思います。

上記のような経緯があり、鈴木さんに1年生に向けたメッセージを述べてもらいました。前述のように、彼女は人の意見をよく聴き、目の前のことを着実にやっていくのが強みです。その強みを大事にしながら、今後さらに彼女が自分の意見を自分の言葉で語るようになれば、とても大きな“人”になるのではと期待しています。



新入生のことば

はやしいろは
林 彩葉

柔らかく暖かな風に舞う桜とともに、私達113名は千葉明德短期大学の入学式を迎えました。本日はこのような温かい雰囲気の入学式で私たちを迎えていただき、とてもありがたく思います。新入生を代表し、心からお礼申し上げます。

私は子どもが好きで、将来は子どもに関わる職業に就きたいと思っていた時に、明德の存在を知り、オープンキャンパスに参加しました。オープンキャンパスでは先輩方が手遊びを披露して下さったり、現役の保育士の方から保育園での生活や園児たちのことを聞くことが出来たりと、とても貴重な体験をしました。そして何より先輩方と先生方が一緒になって楽しそうに保育について考えていく姿を見て、私もこの学校で先輩方や先生方と一緒に幼児教育を学び、保育の専門家になりたいと思いました。

私はこの学校で沢山のことを学びたいと思っています。ピアノは初心者なので特に力を入れていき、弾き歌いができるようになりたいです。また絵本の読み聞かせの仕方も学びたいです。スタートアップ・カレッジ（編注：入学前に行う授業）で絵本の読み聞かせの模擬授業がありました。その時の先生の読み聞かせは絵本の世界に引き込むような素敵なものでした。私も先生のように読んでみたいです。そして沢山の遊びを身につけ、遊びの便利帳のレパートリーを増やし、遊びの達人になりたいです。

保育について学んで行く中で、楽しいことだけではなく、辛く大変なこともあると思います。その時は仲間や先輩方、先生方と協力し、ともに乗り越え、最後は笑顔になれるよう一生懸命に頑張ります。これからの2年間、よろしくお願いします。

「新入生のことば」に寄せて

鶴田 真二


本学の入学式では、「新入生のことば」として、新入生がこれから始まる学生生活への思いを述べる場があります。今年度は、新入生113名を代表して林彩葉さんにその思いを述べてもらいました。新入生は本学への入学に至るまでに、オープンキャンパス、公開授業、またスタートアップ・カレッジ等への参加を通じて、様々な体験を重ねてきました。そしてこの度、入学式を迎えた新入生の姿からは、保育者への道を歩み始めた初々しさと共に、本学で保育を学ぶという固い決意が感じられました。また、これから始まる学生生活への期待に心が躍っているようにも見えました。

林さんのことばにあるように、2年間の学生生活には、楽しいことばかりではなく、辛く大変なこともあるかもしれません。しかし、在学生・教職員一同、新入生の「保育を創る仲間」として、これからの日々を楽しみにしています。保育者になるという目標に向けて、共に歩んで行きましょう。よろしくお願いします。

1年生の4月


明德を知る、お互いを知る オリエンテーション

4月の第1週目。入学したばかりの新入生が、これから2年間を共に過ごす仲間や明德を少しでも早く知ることができるよう、下記のようなプログラムのオリエンテーションを行いました。

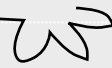
次ページからは、オリエンテーション全体を指揮し、新入生の皆さんを見守っていた教員代表として、柴田先生から1年生へのメッセージを掲載します。 

オリエンテーション

4月7日（月） 13:00 - 16:00

- ・ 3人組での自己紹介 ～偶然の出会いが必然に～ 
- ・ 3人組での学内&学園近辺フィールドワーク ～2年間の生活の場を知る～

4月8日（火） 11:00 - 16:00

- ・ 「学びの創造プラン25」のふりかえり ～入学後の目標設定～ 
- ・ スタートアップ・カレッジでの取り組みをふりかえる ～仲間との話し合い～



オリエンテーションをふりかえって ～1年生に向けて～

しばた だいすけ
柴田 大輔

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。いよいよ2年間にわたる明徳の学びが始まりました。新入生の皆さんはこれから明徳で過ごす2年間でどのような学びを得て行くのでしょうか。それは学校から与えられるものではなく、自分で見付けて行くものです。待っているだけでは何も始まりません。一人ひとりが関心・意欲を持って、自分の周りの人や事柄に関わってみましょう。そこには今まで気づかなかった新しい出会いや発見があるはずです。その体験を通じて、現在の自分自身の姿を見つめ直すこと、そして目指す将来像を思い描きながら、様々なことに積極的に取り組んで行きましょう。

明徳での学びは、入学前から既に始まっています（編注：スタートアップ・カレッジなど。P.8参照）。オリエンテーションでは入学前の学びと、入学後から始まる学びをつなぐ位置付けで、これまでの学びをふりかえるとともに、これからの目標を定めることに取り組みました。

明徳では入学するにあたり、「学びの創造プラン25」を作成する取り組みを行います。それは保育者となる将来の自分自身の姿を思い描き、それに向けて一つ一つ具体的な目標を立てること。そして都度、これまでの取り組みを振り返り、自分の立てた目標に向けて、これからどう行動すべきかを考え、次の段階へとつなげる取り組みなのです。

今回のオリエンテーションでは、入学前に立てた目標と高校卒業までの取り組みの結果をふりかえり、それに対する自身の評価を踏まえ、再度入学後の目標設定を行いました。新入生の皆さんは、高校生のように目標をどのくらい達成できたでしょうか。胸を張って「達成できた」と言える人がいる一方で、「全然達成でき



なかった」という人もいるかも知れません。しかし、目標を達成できなかったことを悔いているばかりでは意味がありません。大切なのは自分が出来なかった事実を認めること、そして目標達成に向けて、諦めずに継続して取り組むことです。そこをスタートとして、達成するにはどうすれば良いかを考え、新たな取り組みが始まります。

入学後の学びに向けて、オリエンテーションでもう一つ取り組んだこと。それはスタートアップ・カレッジで繰り返し取り組んできた仲間や教員との「話し合い」の体験です。

スタートアップ・カレッジでは、初めての出会った仲間との話し合いの中で「自分の意見を述べること」や「人の話を聴くこと」、「色々な意見をまとめること」に苦戦する様子が見られました。この取り組みを通じて、みなさんは気づき、何を学ぶことができたか、改めて思い出して下さい。「自分の想いを素直に口に出して語ること」の難しさを感じた人、「自分の話を伝えるだけではなく、仲間たちの話を聴くこと・受け入れることも大切であること」に気づいた人が多かったのではないのでしょうか。また、仲間たちの意見を聴くことで自分自身の考えを深めることができた人もいたかも知れません。

仲間たちに自分の考えを伝える時、「間違えていたらどうしよう」「こんなことを話したら、みんなはどのように思うだろう」と話すことをためらう人も多かったのではないのでしょうか。でもそれは自分だけではなく、みんなも同じ思いを持っているのです。他の人の話を聴くこと・受け入れることが大切なこと、それは既にみなさんは体験してきています。

最初は勇気が必要なことですが、違う意見との対立を恐れず、思いきって自分の考えを素直に語ってみましょう。そして、仲間たちや私たち教員と一緒に語り合うことを楽しみましょう。それが出来るようになった時、みなさんの学びもきっと深まって行くと思います。



2年生の4月

自分で選ぶ授業の始まり

2年生の4月。それは、さまざまな授業の中から自分でコースを選択しなければいけない月です。「あそび技能演習」は7コース、「現代社会論」は10コース、「保育方法演習」（通称：ゼミ）は10コース、「フィールドワーク」は11コース。これらのコースを受け持つ各教員の説明を聞き、シラバスを読みながら、自分が1年間学びたいコースを一人ひとりが1ヶ月かけて選びました。

このように選択を迫られながら4月を過ごした2年生の一人の声を紹介します。↓

2年生になって

にったまさゆき

2年生：新田 雅幸



「2年生になった」という実感が湧かないまま、4月に入ると1年生が入学してきましたが、サークル説明会や学友会選挙を通して、「2年生になったんだ」と少しずつ実感が湧いてきました。そして2年生になり選択授業が増えると、学年全体に「戸惑い」「迷い」といった空気が広がりました。そんな中、選択授業の最終決定を迎えました。

「自分なりに考え選択する」。このことは、今後も何度も突き当たることだと思います。私は、今までもさまざまなことを選択してきましたが、優柔不断なところがあり、後悔することもありました。しかし今回の選択は、先を見据え「自分に何が足りないのか」「何が必要なのか」を考えた上で、「就職」という軸を持って選択しました。そのため、悔いのない選択を私はできたと思っています。実際のところ、「一番忙しいところを選択してしまったのではないか」と思いますが、自分が必要な実習録やエピソード考察を補い、深く考えることを目指して選択したので、今回選択した様々な授業に間違いはないと思っています。そして、何か気になることがあれば各先生方に相談しようと思っているので、今は前向きに考えています。

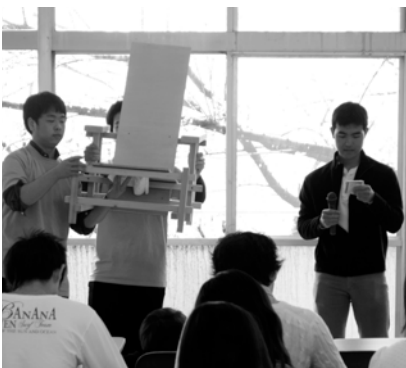
2年生になったことを一番象徴しているのが、これから行われる実習と就活だと私は感じています。今まで長くて2週間の実習だったのが、6月からは3週

間！ ほぼ1か月間の幼稚園実習に向かうのです。これに関しては、想像できる範囲を超えているので何が起きるのか、私にはわかりません。しかし、この実習を終えて手にするものはとてつもなく大きいと思います。ですから私個人としては、不安と緊張もありますが、ワクワクしている面が強いように感じています。

新入生歓迎会

入学式翌日の4月4日は、新入生への歓迎の意味も込めて、2年生による学友会とサークルの紹介で始まりました。その紹介では、「1年生と2年生の交流を深めよう！」「みんなでいい学校にしていこう！」という発言が随所にあり、堂々と誇りを持って話す姿がとても頼もしく感じました。

また、1年生を迎えるにあたり、サークルで使用する教室や倉庫を自主的に掃除している2年生の姿もありました。学友会やサークルについては、次号で詳しく紹介しますが、今回は写真でその様子をご覧ください。



▲歓迎会でのサークル紹介
及びその準備の様子

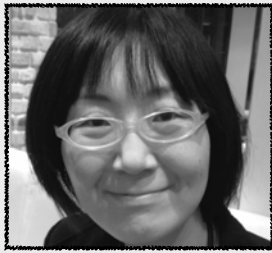
◀充実したサークル活動の
ためにリズム室を楽しみなが
ら片付ける2年生たち



PROFILE

！新連載！

教員からのおすすめ



教員名

たかもり ともこ
高森 智子

担当科目

児童文化・あそび
技能演習・フイー
ルドワーク(遠野)

メッセージ

授業のない時は
図書館にいるの
で、本の紹介をし
てみました。けれ
ども、紹介できな
かった本も、まだ
まだまだたくさんあり
ます。

「月歩学歩」を
読んで、少しでも
興味を持って下
さったそのあ
なた、図書館に
遊びにきません
か？絵本トーク
に花を咲かせま
しょう！

本学図書館には、各教員の専門分野や関心が一目瞭然の「推薦図書コーナー」があります。この連載では、その一端のみならず、教員から皆さんへの「おすすめ！」を紹介していきます。

初回は、図書館担当をされている高森先生から皆さんへのおすすめを発信です。図書館自体がおすすめなことは言う間でもありません。

絵本の世界へようこそ！

千葉明德短期大学図書館の名物(?) といえば、先生方のおすすめコーナー！そこには先生方の「これは！」と思う本が、場所を取り合うように並んでいます。その他にも、「就業力育成図書」のコーナーや「よりみちパン・セ」シリーズのコーナーなどがあり、これらは毎月図書館で発行している図書館通信でも紹介されています。ぜひ手に取って見て下さいね。

「本を読みたいけれど、なかなか時間がなくて…」というあなたや、「活字が詰まっている本は読む気がしない」というあなたには、ちょっとした息抜きに絵本はいかがですか？

絵本は、必ずしも子どもに読み聞かせるためだけにあるものではありません。大人が一人静かにページをめくるものであってもいいのです。

今月号では、図書館にある絵本の中から、おすすめの本を紹介します。

◎「優しい涙を流したい」というあなたに

『おばけのケーキ屋さん』(SAKAE絵・文 マイクロマガジン社 2013年)
おばけのケーキさんは、みんながびっくりするほど美味しいケーキが自慢です。ところがある日、そのお店にやってきた女の子が、「パパのつくるケーキと同じくらい美味しい」と言いました。自分の作るケーキの方が美味しいと言わせたいおばけさんは、月に一度ケーキを食べに来てほしいと頼みます。面倒くさそうにうなずいた女の子でしたが、やがて二人は楽しい時を過ごすようになり…。



おばけさんと女の子の互いを思いあう気持ちに、心が温かくなるお話です。

! hot news !

new movements of this month in meitoku

! 今月の明德速報!



4月27日(日)、チャリサー(自転車サークル)が新メンバーを加え、新たな旅に向けて新発進しました。片道4時間弱かけて明德⇒養老溪谷の旅です。養老溪谷に向かう道中では、ちょうど「中房国際芸術祭市原ART×MIX」を開催しており、その雰囲気も味わいながら、溪谷では釣ったニジマス BBQで味わったそうです。チャリサーの詳細については次号で紹介しますが、1年生の皆さん、体力をつけながら千葉巡りの旅に参加しませんか?



! 次号からの新連載予告!

お楽しみに!

学生ページ

学友会を中心に、明德の「今」を**学生**が発信していきます。

総合保育創造組織

明德の「総合保育創造組織」の幼稚園・保育園を紹介します。

卒業生の今

明德を卒業した先輩たちは、今、どのように働いているのでしょうか。さまざまな現場で活躍する先輩たちからの声をお届けします。

MEITOKU SNAP



明德にある桜の木...学生たちは散りゆく桜の花びらで遊んだり、桜の木の下でご飯を食べたりと「春」を満喫していました。季節は移り行きますが、これからもこのようにその時々「今」を目一杯味わいながら生きていきたいですね。

明德の5月

7日 (水)

・公務員模擬試験

13日 (火)

・教育実習II事前訪問
(2年生)

24日 (土)

・スターバックスお話ライブ

25日 (日)

・障害者スポーツ大会ボランティア
(1年生)

31日 (土)

・保育実践研修会
・オープンキャンパス
・オープンスペース (たいむ)

編集後記

新発信として新発進した4月号、いかがだったでしょうか。今年度の新2年生は、「みんなで明德をより良い学校にしたい!」という強い思いを持って、1年生を巻き込みながらエネルギッシュに活動しており、明德が学生を中心に新たな動きを生み出しながら新発進しているように感じています。この「月歩学歩」編集委員も新しいメンバーを加えて新発進、明德の様子を生き生きと発信していきたいと思っています。そのためにも、皆さまからの声をお待ちしています! (田中)

★INFORMATION★

明德HPの「めいたんブログ」でも、明德の「今」を日々発信しています。ぜひご覧下さい。

<http://chibameitoku.blog53.fc2.com>

発行：千葉明德短期大学

千葉市中央区南生実町1412

Tel:043-265-1613

Fax:043-265-1627

mail:tandai@chibameitoku.ac.jp

URL:<http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html>

編集

田中 葵

伊藤 恵里子

高森 智子



読者の皆様へ：『月歩学歩』に対するご意見、ご感想を郵便やメールにてお寄せ下さい。